

## 問5. 消防団員の「勤務中の出動」

### 1. 質問項目を設けた経緯: 仕事中だと、火災現場に出動できない

ヒアリング調査の中で、「たとえ火災発生を覚知しても、職場の状況によって、火災現場に出動できないことがある」との声があった。一部の職場では「出動が早く許されるケースはまれ」「たとえ出動が許されても、有給休暇扱い」という実態があることがわかった。

### 2. アンケート調査項目: 消防団員の「勤務中の火災発生覚知」

●お仕事に関する質問。(数値は「はい」と回答のあった数) N(総数)=3,452

問5職場で、管轄範囲内で発生した火災を覚知した場合、火災現場への出動は可能ですか。(1つだけ選択)

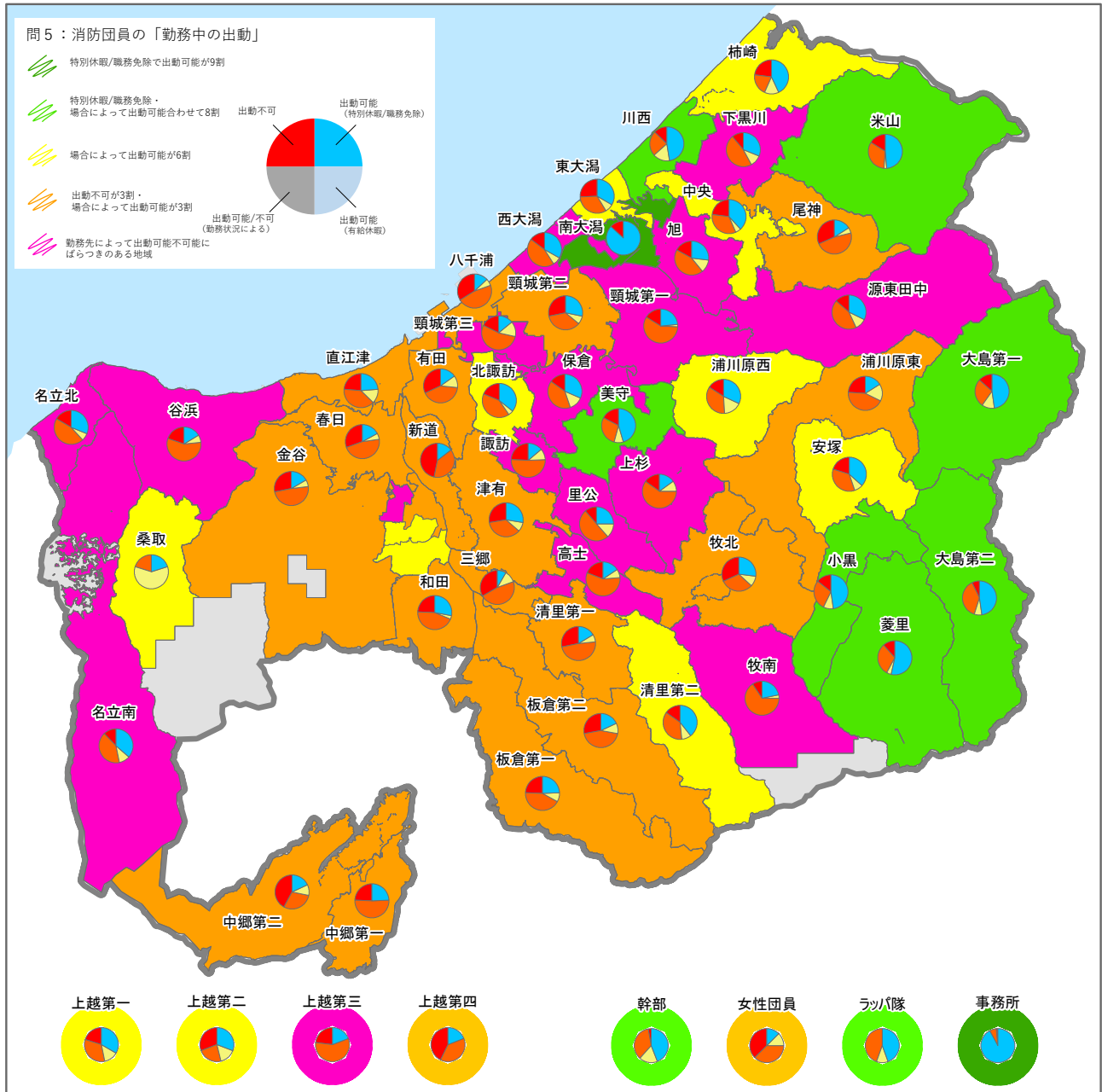
- ・わたしの職場では、特別休暇や職務免除等で、出動が認められている 830
  - ・わたしの職場では、年次有給休暇で、出動が認められている 253
  - ・わたしの職場では、原則、勤務中には出動できない 612
  - ・わたしの職場では、勤務状況に応じて、認められるときと、認められないときがある 1,158
- ※不明・無回答 599

### 3. 調査結果(円グラフ・全体): 「勤務状況により出動可能・不可能が一定ではない」が全体で41%

わたしの職場では「特別休暇や職務免除等で、出動が認められている」と答えた団員の割合は29%、「年次有給休暇で、出動が認められている」は9%、「勤務状況に応じて、認められるときと、認められないときがある」は41%、「原則、勤務中には出動できない」は21%であった。よってどのような形態であれ、出動が認められているのは「特別休暇・職務免除等」「有給休暇」併せて38%であった。これは全体の団員の4割以下に留まっており、企業等の職場の理解を得られるようにしなければならないことがわかった。「認められるか、認められないかわからない」は最も多く全体の41%を占めており、いざとなったときの団員の出動目処の立てづらさが心配される。「勤務中の出動が認められない」職場に勤める団員が21%もあり、火災時の出動率に影響を与えていると考えられる。

### 4. 調査結果(円グラフ・分団別): 仕事中に出動できない割合が最も高い分団では4割が出動不可

「特別休暇/職務免除で出動可能で出動が認められている」割合が多かった分団は事務所分団の92.1%、南大湊分団の86.7%、安塚菱里分団の53.5%であった。「年次有給休暇で、出動が認められている」割合が多かったのは、上越桑取分団の60%、幹部の17.7%、浦川原西分団の17.1%であった。「原則、勤務中には出動できない」割合が多かった分団は、上越新道分団の47.1%、上越第四分団の42.9%、中郷第二の42.3%であった。「勤務状況に応じて、認められるときと、認められないときがある」牧南分団の65.6%、三和上杉分団60.0%、頸城第一分団の58.1%、であった。

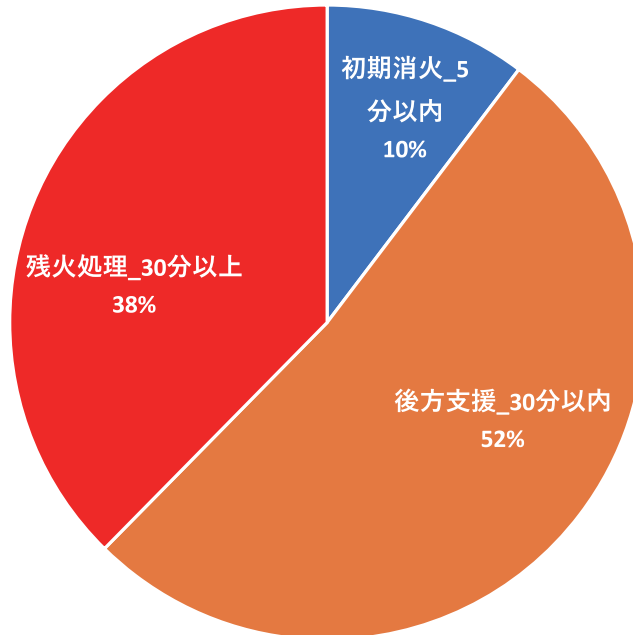


5. 57分団の傾向（不明・無回答は除く）：5つの傾向に分類できる

- 1) 「特別休暇/職務免除で出動可能が9割」 2分団：勤務中においても、いつでも出動可能  
 (事務所、南大湊)  
 特別休暇（勤務先が任意に定める休暇）や職務免除（特別に勤務先に認められれば、勤務時間中でも職務専念の義務が免除されること）で、勤務中の出動が認められている団員が多い地域。9割の団員が、これにあたり、勤務中にいつでも出動可能な状況にある
- 2) 「特別休暇/職務免除・場合によって出動可能合わせて8割」 9分団：勤務中においても、一定の出動可能団員がいる  
 (ラッパ隊、大島第二、幹部、安塚菱里、柿崎米山、安塚小黒、大島第一、三和美守、柿崎川西)  
 「特別休暇/職務免除で可能」が5割弱、「場合によって可能」3割弱～4割、を合わせると概ね8割の団員が勤務中に出勤可能な状況にある。ただし「場合によって可能」は職場の状況が許せば、という条件付きであり、この割合が常に確定していないことが課題である。
- 3) 「場合によって出動可能が6割」 16分団：勤務中の出動人員確保は不確実性が高い  
 (上越高士、上越谷浜、三和上杉、頸城第三、上越諏訪、頸城第一、上越第三、牧南、吉川源東田中、上越保倉、名立南、名立北、西大湊、柿崎下黒川、吉川旭、三和里公)  
 「場合によって出動が可能」が多い地域は、「出動可(特別休暇/職務免除)」割合が低い反面、「出動不可割合」についても一定数の割合存在する地域。職場の状況が許せば出動可能としている分団においては、6割の団員がこれにあたと回答している。勤務中の出動はそもそも不可能としている割合は、1割弱～2割強で存在している。
- 4) 「出動不可が3割・場合によって出動可能が3割の地域」 20分団：勤務中の出動人員確保は難しい  
 (上越金谷、清里第一、吉川尾神、上越春日、上越三郷、上越八千浦、上越和田、中郷第一、中郷第二、頸城第二、上越津有、牧北、上越直江津、板倉第一、板倉第二、上越有田、浦川原東、上越新道、上越第四、女性団員)  
 「出動不可」が3割存在する一方で、職場の状況が許せば出動可能としている分団においては、3～5割の団員がこれにあたと回答している。不確実性が高い上に、勤務中の出動人員の確保は難しい。
- 5) 「勤務先によって出動可能不可能にばらつきのある地域」 10分団：勤務中の出動人員確保は不確定  
 (柿崎、上越第一、上越第二、浦川原西、安塚、吉川中央、東大湊、上越北諏訪、清里第二、上越桑取)  
 「出動可」が3割存在する一方で、職場の状況が許せば出動可能としている分団も多く存在する。年次有給休暇によって出動できる団員数に幅があり、確実な人員確保は期待が難しい。

# 問6

## 勤務地から消防器具置場までの移動時間



### 問6. 消防器具置場への所要時間

#### 1. 質問項目を設けた経緯: 工作中だと、火災現場に出動できない

ヒアリング調査の中で「職場からの消防器具置場への必要な移動のための所要時間が長くなっており、いざというときに間に合うのか」と懸念が示された。「団員それぞれで、職場から消防器具置場までの距離はさまざま」「面積の広い分団も狭い分団もある」「出動に必要な人数がなかなかそろわないことが発生しており、理由を知りたい」という実態があることがわかった。

#### 2. アンケート調査項目: 消防器具置場への所要時間

●お仕事に関する質問。(数値は「はい」と回答のあった数) N(総数)=3,452

問6. 職場から消防器具置場までの移動は、通常何分くらいかかりますか。複数の場所で勤務する場合、最も長い時間を過ごす場所からの時間を教えてください。(1つだけ選択)

・5分以内 296      ・6～10分 285      ・11～20分 559      ・21～30分 649      ・31～40分 406  
 ・41～50分 226      ・51～60分以内 169      ・1時間以上 278

※不明・無回答 584

#### 3. 調査結果(円グラフ・全体): 5分以内に職場から消防器具置場に到着することができる団員は全体の10%

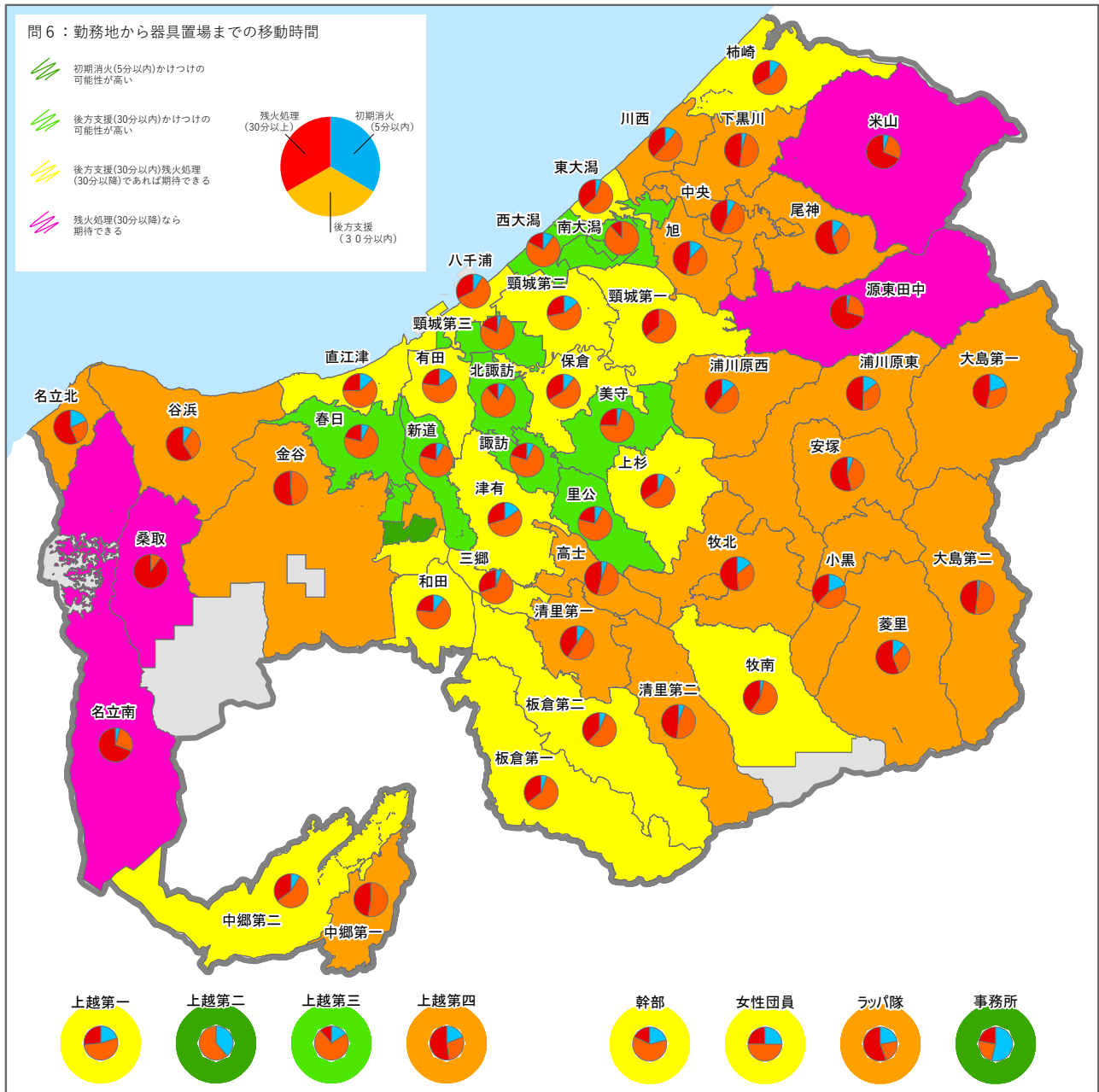
上記の回答結果を受け、専門家の意見を参考に、「初期消火」には消防器具置場まで5分で駆けつけることができることを目安とした。その後の「後方支援(避難支援、消火支援等)」に間に合う時間を30分以内と見積もった。さらに火災覚知から30分以降で消防器具置場までたどり着いた団員には「残火処理(火勢鎮圧後、残り火を点検、処理し鎮火に至るまでの見守り)」を担当してもらおうと仮定して、集計した。

「初期消火(5分以内)」に職場から消防器具置場にたどり着くことができる団員は、全体の10%であった。次に「後方支援(30分以内)」は52%、「残火処理(30分以上)」は38%であった。職場から初期消火に理想的に間に合うことのできる団員は全体の1割しかないことがわかり、初期消火への貢献は厳しい状況であることが明らかになった。

#### 4. 調査結果(円グラフ・分団別): 5分以内に職場から消防器具置場に到着することができる団員がいない分団がある

職場から「初期消火(5分以内)」に出動可能な団員の割合が高かったのは、事務所分団の54.0%、上越第二分団の38.5%であった。職場から「後方支援(30分以内)」に出動可能な団員の割合が高かったのは、南大湊分団88.2%、上越北諏訪分団80.1%であった。職場から「残火処理(30分以上)」に出動可能な団員の割合が高かったのは、上越桑取分団の90.0%、吉川源東田中分団の70.3%、名立南分団の69.1%であった。

職場から消防器具置場まで、初期消火に間に合うように5分以内にたどり着ける団員が「0(いない)」という分団が4分団あった(頸城第一、上越桑取、南大湊、中郷第一)。



5. 57分団の傾向（不明・無回答は除く）：5つの傾向に分類できる

1) 「初期消火(5分以内)が多い地域」2分団：初期消火への必要人員を確保できる  
(事務所、上越第二)

4割弱～5割の団員が5分以内で移動可能と答えている。

2) 「後方支援(30分以内)が多い地域」10分団：後方支援への必要人員を確保できる

(上越新道、南大湊、上越第三、西大湊、上越諏訪、三和美守、三和里公、頸城第三、上越春日、上越北諏訪)

7割強～9割弱の団員が30分以内で移動可能と答えている

3) 「後方支援(30分以内)・残火処理(30分以上)がそこそこいる地域」19分団：後方支援と残火処理にそこそこの人員を確保できる

(上越津有、東大湊、板倉第二、幹部、上越第一、柿崎、上越八千浦、上越和田、上越三郷、板倉第一、牧南、頸城第二、三和上杉、女性団員、上越直江津、上越有田、上越保倉、頸城第一、中郷第二)

6～7割の団員が30分以内で移動可能、一方で、3～4割が移動に30分以上かかると答えている

4) 「残火処理(30分以上)が多い地域」26分団：後方支援も期待できるが、残火処理にも多くの人員を確保できる

(ラッパ隊、吉川中央、大島第二、柿崎川西、吉川旭、吉川尾神、浦川原西、清里第一、牧北、安塚、上越第四、安塚小黒、上越金谷、柿崎下黒川、大島第一、安塚菱里、名立北、清里第二、浦川原東、上越谷浜、上越高士、中郷第一、上越桑取、名立南、柿崎米山、吉川源東田中)

4～5割、または7～9割の団員が移動には30分以上かかると答えている分団があった